

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900694
法人名	医療法人 岩村外科胃腸科
事業所名	グループホーム よしの里
所在地	愛媛県宇和島市吉田町魚棚20番地5
自己評価作成日	平成23年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年3月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・「家庭的な雰囲気なもとの当たり前に普通の生活を」の理念に基づいて、自宅で行っていた生活の継続を目指しています。  
 ・面会者や地域住民の方に会う時には笑顔で挨拶するように心掛けている。  
 ・利用者、また利用者の家族との信頼関係が築けていけるよう職員一人一人努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は利用者と公園の草引き当番の活動に参加されたり、又、ホーム便りを近所に配る際にも利用者と一緒に配られる。さらに事業所は、中・高校生の職場体験の受け入れや、高校教諭の認知症研修等にも協力されている。秋祭りには、七つ鹿や神輿が来てくれたり、亥の子には、地域の子供達が来て、元気な声でついてくれる。カラオケ・習字・コーラス等のボランティアの方の訪問も多い。毎年、地区の公民館にて、法人と合同でロビー展を開催されており、利用者の作品等を出品していただける。入居間もない頃は「面会に行くか帰りたいか」と心配するご家族もいるが「できるだけ来ていただいた方が、ご本人の安心につながります」と説明し、お友達にも来ていただけるようお願いされている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -  
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホーム よしの里

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)

氏名 中村 竹子

評価完了日 平成 23 年 1 月 28日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 「家庭的な環境の下で、あたり前に普通の生活を」を事業所 理念として、利用者が日々の生活の中で生きがいを見つ け、またそれを維持していけるよう職員間においても地域密 着型サービスの意義や役割を踏まえた上で共有し実践につ なげている。	
			(外部評価) 事業所開設時に作成した理念のもと、事業所では利用者 に「できるだけ自宅で居るような感じで時間を過ごしていただ きたい」という思いをもって、利用者個々が地域と関わり、馴染 みの人や場所ができるような支援に努めておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 近隣への買い物や散歩などにより積極的に地域に出向くよ うにしている。また、地域の祭りや文化祭、自治会の清掃作 業にも参加したている。自ホームでの花見や観月会などに 参加して頂き交流を図っている。また遠足時には地域の弁 当屋さんを利用して地域との関わりを増やす工夫している。	
			(外部評価) 自治会に加入されており、事業所には、回覧版や広報が 廻ってきている。職員は、利用者と公園の草引き当番の活動 に参加されたり、又、ホーム便りを近所に配る際にも利用者 と配っておられる。さらに事業所は、中・高校生の職場体験 の受け入れや、高校教諭の認知症研修等にも協力されてい る。秋祭りには、七つ鹿や神輿が来てくれたり、亥の子には、 地域の子ども達が来て、元気な声でついてくれる。カラオケ・ 習字・コーラス等のボランティアの方の訪問も多い。毎年、地 区の公民館にて、法人と合同でロビー展を開催されており、 利用者の作品等を出品しておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や近隣への広報の配布を通じ地域の人々へ 発信を行なっている。地域の方々との交流を通じて認知症を 理解していただけるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議は2ヶ月に1回、茶話会形式にて開催している。職員研修、行事、日常生活等の報告をしている。話し合いの中で出された意見はサービス向上のために活かせるよう努めている。また運営推進会議開催の際には案内状を送り、1週間前には電話をして参加を促している。</p> <p>(外部評価)                      2ヶ月に1回の運営推進会議には、利用者・ご家族・地域の方・市の職員・他の事業所の方達にも参加していただいている。観月会や大掃除等の行事ごとと合わせて会議を行うことについては「参加しやすい」と感想をもらったようだ。又、ボランティアに来られる方からは「訪問日以外にも立ち寄ってもいいですか」と言ってくださり、野菜を持って来てくださる等、交流する機会が増えてきている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議には、毎回市町村担当者の参加を頂いて、情報交換をし、不明な点については気軽に相談ができる体制がある。また2ヶ月に一度、介護相談員を受け入れている。</p> <p>(外部評価)                      2ヶ月に1回、介護相談員が来られ、2～3時間ゆっくり利用者の話を聞いてくださっている。事業所では、市の認知症介護のモデル事業の一環で「徘徊模擬訓練」に参加されたが「徘徊役の知らない人を探すということは、声掛け等が難しい」と感じられたようだ。市と協力して年2回、グループホーム連絡会を開催されており、研修や事例検討をされている。先日の連絡会では「成年後見制度」について勉強され、管理者は、今後の制度の必要性を感じられたようだ。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      研修の参加や職員間での話し合いにより身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)                      転倒の危険がある方の居室には、利用者が見る位置に「一人で立たないでください。ベルを押してください」と書いた紙が貼ってあった。管理者は、職員に具体的な場面を捉えて指導されている。「転倒」について職員で話し合った際、トイレに行く時間の予測ができれば、防ぐことができたのではないかと結論が得られたようだ。身体拘束はせず、事故防止できるよう話し合い、ケアの工夫に努められる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止についての研修に参加している。日頃の話し合いや研修報告等で職員間での情報の共有を図り、虐待が見過ごされることがないように努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解しており、相談等があれば支援できる体制にある。職員は研修に参加し理解を深めるよにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をとり、ホーム内の見学をして頂いたり、パンフレット等での説明をして納得して頂いている。入所についての不安や疑問点等についても質問して頂き不安の解消に努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、気軽に相談して頂けるよう配慮している。また家族とは面会時や年2回の家族会の際に意見を聞き、質の向上に努めている。  (外部評価) 管理者が交替された際には、ホーム便りに写真入りで紹介された。年に2回の家族会や来訪時に、ご家族から意見を聞くようにされている。年末の家族会では、会議と合わせて事業所の大掃除を行い、職員は、ご家族とお話ししながら一緒に作業をされた。遠くに住むご家族には、電話で近況報告をされたり、来訪時には個人記録を見ていただき、ご本人の状況を伝えておられる。	「お世話になっているからこれ以上望んでは気の毒」等と思っているご家族もあり、ご家族が事業所のケアサービスについて、意見や要望を具体的に言い出せるような機会や雰囲気・場面作りにさらに工夫されてみてほしい。家族会の持ち方等についても、開催日や時間、内容等についてご家族の希望等をお聞きしてみてもどうだろうか。利用する側であるご家族の声は、事業所をさらに良くしていくきっかけにもなる。さらに、評価結果は家族アンケートの集計表等も用いて、ご家族の声を聞く機会を工夫していかれてほしい。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、職員の外部研修参加を推進している。また運営推進会議やミーティングで研修報告を行うとともに、運営に関する意見や提案も聞き入れる環境を整えている。	
			(外部評価) 自己評価は、全職員で何項目かずつに分けて取り組み、ユニットごとに検討して管理者がまとめられた。管理者は、職員に、外部研修の受講や資格取得をすすめておられる。朝・夕の申し送り時や、月1回のミーティング時は、ユニットごとに職員で意見を出し合って話し合っておられ、年2回の事業所全体のミーティング時には、全体で取り組んでいることについて話し合うようにされている。今回は、記録・アセスメント・介護計画・モニタリングの様式について検討された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は月一回のミーティング、行事に参加し職員との意志疎通を図るようにしている。また、個々の努力や各自向上心を持って働ける職場環境を整え、資格取得の奨励に配慮している。また管理者は勤務表を作成する際、勤務形態、希望や事情にも配慮している。	
			(外部評価) 職員個々の経験を把握し、研修案内は全職員が閲覧できるよう出勤簿などにはさんでいる。職員の質の向上を図る為に全職員が年2回研修を受講できるよう配慮してくれている。受講後は発表できる場を作り、ミーティングや運営推進会議で報告している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議では他のホーム職員をお誘いしたり、グループホーム連絡会にも参加している。また外部研修で他の職員と話せる場を作れるよう代表者は努めている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族が見学に来られた際には丁寧に対応し、不安や疑問があれば聞くように努めている。入所後はご本人さんの様子を常に把握していき生活の中に不安や要望がないか把握に努める。また安心できるよう関わりながら信頼関係を築けるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には家族にお話を聞かせて頂き、不安や要望等はないか傾聴して対応している。その不安や要望にはできる限り解決ができるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前後、家族、ご本人、アセスメント情報等、収集し現在一番必要なサービスは何かを見極め他のサービスも含めた対応をしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者を一人一人できることを把握し、職員は利用者と共に支える合う関係にあることを理解している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 運営推進会議や家族会等で家族一人一人信頼関係を作れるよう希望など受け入れるよう柔軟性を持った支援をしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前から利用している美容院や以前からの顔なじみの関係が途切れることなく続いていけるよう、関係の把握して支援をしている。	
			(外部評価) ご家族と一緒に行きつけの美容院に行かれたり、農業をされていた利用者の方は、事業所の畑の世話をしてくださっている。又、絵を描くことが好きな利用者は、摘んで来た花を描いて、食堂に飾っておられた。手芸の得意な方は、ストラップや干支の置物を作ったり、本のお好きな方は図書館に本を借りに行かれています。入居間もない頃は「面会に行くと帰りたくなるのではないかと心配するご家族もいるが「できるだけ来ていただいた方が、ご本人の安心につながります」と説明し、お友達にも来ていただけるようお願いされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は利用者個別に話しを聞いたり、食事やおやつ等の時間は利用者同士の会話が弾むように職員が仲介役をしている。またトラブルが起こらない様にも配慮している。利用者同士で過ごせる場所を提供している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された方にも色々な便りを送付し、家族の方にも気軽に来所して頂いている関係にある。利用者の方が他の施設に入所された場合には、近くに行った際に立ち寄り面会している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人、ご本人に思いを聞く様に対応したり、希望、関心、意向を探り、気付いた事があればメモし把握に努めている。また、言葉では意思表示ができない方については表情や反応から希望や好みの把握に努めている。耳の遠い方には職員がメモを書き希望や意向を聞くように努めている。 (外部評価)	
			夜勤時、職員は、利用者と一緒にゆっくりお話ししながらこれまでのことや日々の暮らしの希望等を聞き取っておられ、聴力が弱い利用者とは、筆談やジェスチャー等を交えてコミュニケーションを取るようになっている。	事業所では、アセスメントの様式について「利用者のことがよくわかる様式に替えていきたい」と、現在、検討されている。利用者一人ひとりの思いや意向を把握できるようなアセスメントに工夫され、事業所の理念の実践に向けた支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族などからも、新しい情報など聞き、又一人一人の暮らしの把握に努めている。面会時など、家族より、昔の事を教えて頂いている。面会に来られた際など本人の状態を伝えるように配慮している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の一日の生活リズムで過ごして頂ける様に努めると共に、毎日バイタルチェックを行うことにより、身体的にもまたその他の心身状態等、変化を見逃さないよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご本人や家族の意向を十分に聞き、カンファレンスやミーティングを行い、本人がよりよく暮らすための介護計画を作成している。年2回の家族会の開催時にも家族と話し合い、意見が介護計画に反映できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、1年ごとに見直すようになっている。利用者の状態に合わせ自室の掃除、洗濯物干し、食事の支度や片付け等「ご本人のやりたいこと」をサポートできるよう計画されていた。</p>	<p>管理者は、アセスメントを充実させ、利用者一人ひとり「何に重点をおくか」というニーズについて優先順位を付けることや、又、記録、カンファレンス、モニタリングがしやすくなるよう、考えていきたいと話しておられた。さらに利用者個々の現状に即した介護計画の作成に取り組んでいかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別にケース記録を作成し、日勤、夜勤帯とご本人の状態を記録している。その他に排泄、食事摂取量、バイタル等も記録し、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 買い物や散歩、美容院等、個別に外出の支援を行い、ご本人の要望、希望に添える様に支援している。眼科や歯科等ご本人の希望される病院に職員が同行し、支援している。またお墓参りにも行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 月に数回、ボランティアの方の協力を得て、カラオケ、習字、押し花、お茶のクラブを行なっている。年2回消防署の協力を得て、避難訓練も行っている。公民館のロビー展、銀行も作品を展示し、毎年かまぼこ展の出品をしている。自治会の芋たきや公園の掃除にも参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居前のかかりつけ医がある場合は、家族、本人の意向に応じ、継続的に受診できるようにしている。また協力医療機関においては24時間連携して安心した医療が受けられる。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医は、利用者のご家族が決めるようになっており、現在は、全員、母体である協力医に診てもらおうになっている。協力医は、必要に応じて往診があり、365日24時間対応してくれるようになっている。協力歯科医は、毎月訪問診療があり、連絡しておく必要器具を持参して治療していただける。眼科の通院は、ご家族の都合に合わせて職員が同行することもある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関の看護師とは日常的に連絡し、健康管理についていつでも相談できる体制にある。また緊急時対応研修会を2ヶ月に1度開催し、看護師による研修を行っている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院前に家族、本人、協力医療機関と話し合い密に連携をとりながら安心して入院生活が送れるようにしている。入院後は可能な限り早期に退院できるよう情報交換を行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時及び重度化、終末期の初期の段階に本人、家族の意向を聞きホームとしての方針を明確にし共有している。状況に変化があった場合にはその都度柔軟に対応できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 入居契約時、看取りの指針に基づき説明されている。事業所の看取りの指針には、「数年を過ごした場所で親しい人に見守られ自然な死を迎えられる」と示しておられる。利用者が重度化して入院に至り、病院を退院するには、法人代表者でもある母体病院の医師とご家族・管理者で話し合い、施設入所も視野に入れて検討されている。経済的な理由もあり、入居時から施設入居を希望されているケースもあるようだ。</p>	<p>利用者個々の終末期の過ごし方の希望等もうかがいながら、ご家族とも、ご本人の暮らしとケアについて話し合い、ご本人にとっての「当たり前のふつうの生活」の支援について、事業所でできることを話し合ってみる機会にされてはどうか。</p>

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変や事故発生時に備えて2ヶ月に1回の看護師による緊急時対応研修会を開催しており全ての職員は緊急時の対応を学んでいる。また緊急時マニュアルを作成しており適切な対応ができるように努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署と運営推進会議のメンバーやボランティアグループ、地域の方の参加のもと、避難、通報、消火の訓練を行っている。更に毎月ホーム内で自主避難訓練を実施し全職員が避難できる方法を身につけている。またホーム駐車場は、災害が起こった場合に避難場所として提供できる体制でいる。	
			(外部評価) 年に3回の避難訓練では、消防署や運営推進会議のメンバー、ボランティアの方、地域の方等も参加いただき、夜間想定で実施されている。隣に住む法人代表者が、いざという時には、駆け付けるようになっている。津波の場合は山が遠いこともあり、まずは事業所の2階へ上がることに決めている。避難訓練時、地域の方には、避難した利用者を見守っていただくようお願いされている。次回は「東日本大震災の情報を基にして避難訓練を行いたい」と消防署に協力をお願いされている。管理者は「今後さらに職員が冷静に行動できるよう、訓練を重ねていきたいと話しておられた。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや自尊心を傷つけないように一人一人の人格を尊重し声掛けの方法など配慮している。	
			(外部評価) ホーム便りの記事や写真の掲載等の取り扱いについては、入居契約時に利用者やご家族の了解を得るようにされている。市社協の広報に事業所のカラオケボランティア時の様子が掲載され際には、事前にご家族にお話をして了解を取られた。時には、利用者間のトラブルもあるようだが、両方のプライドを傷つけないような解決に努め、職員はトラブルが起こりそうな時には、仲に入り注意深くかわるようになっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で思いや希望を汲み取り、自己決定できるように一人一人の表情や背景、話しの中で多様な面で働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 昔ながらの一日のリズムを大切にする為に一人ひとりの生き 方をアセスメントし、昔から楽しみにされていたことを希望に よって取り入れていく。また職員側のペースにならないように ミーティング等で振り返りを行なっている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) その人らしい衣服をご本人、家族等から聞くなどして把握す るよう努めている。またホームでは季節に合わせた服を自 ら選択出来るよう声掛けしたり工夫する。美容室は昔からの 馴染みの店に行くようにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理、後片付け等して頂いている。また誕生日、母の日、敬 老の日、お正月など年中の行事や季節、希望に合わせた食 事を取り入れている。	
			(外部評価) 自ら調理にかかわってくださる利用者も数名おられ、餃子や 巻きずし作りは手早く作業をしてくださるようだ。畑の野菜や 旬の食材を使うように心がけておられ、調査訪問時には、畑 で採れたほうれんそうを使った白和えが食卓に上っていた。 食事量の制限がある方は、他の方と比べて差を感じないよ うな、盛り付けや材料で工夫されている。誕生日には、ご本人 のお好きな物を用意して、皆で万歳三唱をしてお祝いされて いる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 個別の状態を把握し、その人にあつた量を把握している。食 べる量や水分量が一日を通じて確保できるよう支援すると共 に、一人一人、ファイルに分けて個別記録を作成し記入して いる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きを行っている。自発的にできない方には洗面 所誘導等し、できない部分の介助を行い口腔内の清潔保持 に努めている。また月1回、協力歯科医療機関より歯科医 師、歯科衛生士が来所し、ホーム職員と利用者へ口腔ケア 指導を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握するために排泄チェック表に時間をつけ、尿意・便意の定まらない利用者にも時間を見計らい声掛けをし誘導を行っている。また、声のかけ方では、ご本人の自尊心を傷つけないように常に気をつけている。 (外部評価) ご自分でトイレに行かれる方が多く、ご自分で尿取りパッドを新聞紙に包んで、トイレの所定の容器に入れてくださる方もいる。職員がトイレに誘い、排泄を行っていた利用者が入院され、入院中は排泄の失敗が続き、全介助状態になったようである。退院後は、ご本人の状態をみながら、再度トイレで排泄できるような支援を続けておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) なるべく薬に頼らないように個々に適度な運動、水分補給、食物繊維、乳製品を増やしたり工夫をしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望に合わせ、時間やタイミング等、個別に入浴を行なっている。またご自分の石鹸やシャンプーを準備されている方もあり、その人らしい入浴に努めている。 (外部評価) 脱衣所のカーテンが床上20cm位の長さだったが、利用者から「足元が寒い」という意見があり、カーテンの長さを下げて改善された。午前中、入浴する方が多く、一人で入る方は、時々外から声をかける等されている。「今日は入らん」と言われた場合は、無理強いせず、次の日に誘うようにされている。以前、利用されていたデイサービスでは入浴を拒否していた方も、事業所ではすんなりと入浴される等、浴槽や浴室が一般家庭のような雰囲気に安心されるようである。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活習慣を大切に、ご本人の状態や希望に合わせて休んでもらっている。また眠れなくて困っている方には日光浴や日中の活動量を増やし支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋を一覧にし職員は常に確認するようにしている。本人に薬を手渡す際には説明ができるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 今までしておられた事、得意な事などを理解し食事作りや食器洗い、掃除や洗濯等、役割意識が持てる様支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気が良い日は戸外へ出て散歩や日光浴をしている。ご家族の方にも協力していただき、一緒に外出している。一年間の行事予定表を作り、季節にあった場所に外出している。また顔馴染みの方に出会ったり、少人数で出掛けている。	
			(外部評価) 法人内の福祉施設と合同で花見に出かけたり、納涼祭に利用者全員で参加されている。又、お弁当を持って、かまぼこ板展覧会に出かけたこともある。利用者のレベルに合わせて、少人数で、散歩されたり、個々の希望で、図書館、和菓子屋、以前から行きつけの衣料品店で洋服を買ったり、スーパーやコンビニ、寿司屋等にも行かれ、コーヒーが好きな方は、お気に入りの喫茶店ができていたようだ。利用者ご本人の希望で、職員と、ご自宅の庭の草引きをされることもあり、近所の知人の方が「よい取り組みですね」と声をかけてくださったこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物では自分の財布より支払いをしていただいている。一人ひとりの希望や力をふまえて支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が電話をかけたい時や、手紙を出したい時は気軽に出来る様に環境を整え支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の場の居間では快適に過ごせる様に季節の花を生けたり、季節感を味わえる様な壁面を飾ったりしている。共用のテレビは利用者に刺激がない様に音量調節にも配慮している。	
			(外部評価) 玄関や廊下に大きな絵画が飾られており、利用者が作ったひな人形や皆さんの合作の切り絵が飾られていた。事業所内のあちこちの窓を少しづつ開けて、換気に配慮されていた。駐車場の一角に畑を作っておられ、高菜やネギ、水菜等いろいろな野菜を職員と利用者ボランティアの方の協力を得て、作っておられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間である居間にはじゅうたんを敷きソファを置いて手作り座布団を備えている。足をのばしても楽に過ごせる様にしている。庭にあるベンチも天気の良い日には利用でき、思い思いに過ごせる様にしていきたい。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具や持ち物を持ち込んでいただき今までと変わらず過ごせる様にしている。居室内が殺風景にならない様に手作りの月ごとカレンダーや写真などを飾っている。	
			(外部評価) タンスやテレビ・洋服掛けを持ち込まれている方も見られる。荷物が気になって混乱の原因になるような方もいるが、クローゼットの中を利用して写真等を飾る等されていた。仏壇を持ち込んでいる方もおられ、ご家族がお供え物を買って来られたり、亡夫の位牌に毎日水をあげる方もおられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自立した生活をめざして、共用の場である廊下、トイレ、浴室、階段には手すりを設置している。移動の際には十分に確認していただいている。混乱を招かないように居室や共用の場の表示をしている。	
			(外部評価)	